

## 瑞光山清水寺（安来清水寺）

瑞光山清水寺は、安来市の東部にある孤立した山間の谷間にある仏教寺院です。瑞光山清水寺へは、林立する谷間の長い石段を登り、風化した門をくぐり、要所要所に石灯籠を配した道を通ってたどり着きます。この寺の三重塔である本堂やその他のお堂は、長い石段で結ばれた段丘の上に建てられています。本堂に向かう参道には、樹齢1000年の杉の木がそびえ立っています。

### 観音伝説

瑞光山清水寺は禅宗の天台宗に属し、人々は厄除けの祈願に訪れます。伝説によると、瑞光山清水寺のある山にはかつて不気味な森があり、夜になると不思議な光の柱が現れて村人を怖がらせていたとのこと。その光の源を探してほしいと頼まれた旅僧の尊隆が森の奥深くを探していると、一人の老人が現れました。老人は、長年観音様を拜んでいたが、もう来世に進む準備ができたので、その礼拝を続けてくれる人を探しているといいます。尊隆が引き受けたところ、老人から仏教における慈悲の女神である観音の像を贈られました。僧侶は簡素な茅葺きの小屋を建てて観音像を安置しました。山には水源がありませんでしたが、一週間の間人知れず祈った結果、近くに清らかな水が湧き出てきました。これが瑞光山清水寺の始まりです。現在もこの寺では観音が祀られています。この寺の名前は、2つの奇跡的現象からつけられています。瑞光は「幸運の光」、清水は「透明な水」を意味します。

### 天皇の支援

歴史記録によると、この寺は587年に建てられたようですが、実際の時期は不明です。幸運にも、創建からまもなく推古天皇からの支援を受けることができ、その後はこの地方を治めた強大な大名たちからの支援を受けました。最盛期には48棟の建物がありましたが、現在は10棟未満になっています。最初の本堂（根本堂）は1393年以前に建てられたもので、数世紀の間に何度も増築されています。本堂は杉材で造られており、精巧な漆塗りの棚の中に年代不明の観音像が隠されて安置されています。両脇には平安時代(794-1185)に作られた四天王四神像が立っています。1992年に根本堂が再建された際の調査により、現在の建物はこの場所に建つものとしては5番目の建物であり、最大の建物であることが確認されました。

1859年に建てられた三重塔は、少し離れたところにある、石を積み上げた土台の上に建っています。この塔はこの地域ではあまり使われていない樺の硬い木を使って建てられています。塔を建てた地元の大工は、塔の建築の訓練を受けたわけではありませんでしたが、その技術は、軒下の腕木の間から覗く複雑な彫刻の龍に見ることができ

ます。ここで参拝者は最上階まで登ることが出来ますが、日本の他の場所では一般的にこれは禁止されています。現代になって建てられた宝蔵では、寺の重要な美術品や祭祀品が展示されており、根本堂では座禅が行われています。